



校長室だより

学校と家庭・地域を結ぶ架け橋通信

第11号 令和3年9月1日

小美玉市立美野里中学校

「学び」を止めない、向かい合う

本日から、2学期が始まります。生徒の皆さんも、友達に会ったり、また元気に勉強や運動に励んだりすることを望んでいるところだと思いますが、コロナ禍の中、分散登校・オンライン授業のスタートになってしまいました。保護者・地域の皆様方にも、この緊急事態宣言下、本校教育活動に深いご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

2学期始業式も、通常どおり行うことができませんので、今回は、校長室だよりを通して、生徒の皆さんに、「学び」についてお話しさせていただきます。

ちょっと軽い話から入りますが、私は、土曜日にテレビで放映されている「博士ちゃん」という番組が好きで見えています。あの番組を見ていると、「博士ちゃん」といわれている子供たちは、ジャンルは違えど、本当に一つのことを突き詰めて、知識もさることながら、そのことに対する情熱が強いのに感心させられます。プレゼンテーションも素晴らしく、「知っている」だけでなく、きちんと自分の思いを伝えようとしています。



相対性理論を唱えたアルベルト・アインシュタインは、

私に特別な才能はありません。非常に強い好奇心をもっているだけです。

と言っています。「好きなこと」がはっきりしたら、いったいどれほどの力を人間は発揮できるのだろうと思います。

そうは言っても、「好きなことが自分には分からないよ」という人には、ビートたけしさんのこの言葉があります。

勉強するから、何をしたいか分かる。勉強しないから、何をしたいか分からない。

ドキッとしますね。コロナ禍で、家にいる時間がたっぷりあるこの時期に、読書やネット検索などから、自分の好きなことを探す「知の旅」をしてみてもどうでしょう。

一方、3年生は、この後、受験に向き合っていかなければなりません。ここから先は、3年生に特化してお話しします。

まずは、私が敬愛する心理学者 河合隼雄のこの言葉があります。

学んでいて楽しくないものは、本当の意味で身に付かない。というのは私の実感でもありますが、一方で、苦しさを伴わない学びもまた、二セモノだと思うのです。

受験自体の善し悪しは置いておいて、「本番」という期限のある闘いに臨もうとしている人にとっては、たとえコロナ禍であっても、現状を言い訳にすることはできません。

皆同じ「ルール」、同じ「入試要項」のもとで行われるこの自分との闘いは、スポーツ等の大会とも共通しています。「本番」の日は、確実にやってきます。各自に与えられている時間も平等です。それをどう使うかは、個人の自由であり、個人の責任です。もちろん、コロナに感染してしまったら、自ら命を守るための行動をし、援助を求めていかなければなりません。しかし、できる限りの感染対策を心がけた上で、立ち向かっていかなければなりません。

先生方は、オンライン上でも、電話等でも支援をしてくれますから、自ら学習習慣を確立し、実践し続けて、自分の道を切り開いてください。

人生の中で、最初の大きな関門に臨む皆さんを心から応援しています。